

# 18歳まで医療無料に

## 子ども医療全国ネット 新署名開始

子どもの医療費窓口負担無料の制度を国に求める市民団体が3日、参院議員会館で新署名をスタートさせる集会を開きました。主催は「子ども医療費無料制度を国に求める全国ネットワーク（子ども医療全国ネット）」です。

新たな署名では、新型コロナウイルス感染拡大の影響で「ひとり親世帯をはじめとする多くの子育て世帯の生活困窮や子どもの貧困の深刻化が懸念されている」と指摘。18歳の年齢未までを対象とする医療費窓口負担無料制度の早期創設と、子ども医療費助成を窓口負担なく受けられる方式で実施した自治体への国民健康保険国庫負担の減額措置の完全廃止を求めていきます。

和歌山生協病院で小児科医の佐藤洋一さんが、貧困世帯の実態について講演。コロナ禍以降、貧困世帯の子どもの受診控えが増加し、た背景に経済的理由で自己負担金の支払いが困難なことがあると指摘した上で、「子どもたちの健康を守るために、無料化はとても大切だ」と話しました。

署名の取り組み期間を今月から2025年5月までとし、100万人分の署名集約を目指にしたほか、来年の統一地方選挙を見据え、各地の議会や議員、候補者などへの要請やアンケート、国への意見書採択を目指すことなどを確認しました。



18歳までの医療費窓口負担無料化を求める「子ども医療全国ネット」の人たちと日本共産党の宮本徹衆院議員（右から2人目）、倉林明子参院議員（右から3人目）＝3日、参院議員会館

日本共産党の宮本徹衆院議員、倉林明子参院議員があいさつし、笠井亮衆院議員がメッセージを寄せました。